

いじめの認知件数が多い学校については、教職員の目が行き届いている証であり、正確に認知し、しっかりと対応していくことが大切です。八百津町のいじめの認知件数は、今年度16件です。

いじめは、どの子どもにも、どの学校でも、起こりうるものであるととらえ、教師が軽微な事案を見逃さず、いじめにつながる可能性のある些細なことに對しても、いじめの芽やいじめの兆候として認知するようにしています。未然防止、早期発見、早期対応に力を入れていきたいと思えます。

いじめへの対応として、「いじめ防止基本方針」をもとに職員が研修を行っています。わかった、出来たという達成感を味わえる授業、良さを認めあう学級経営を充実させる努力、社会性の育成、心に響く体験活動の充実、教育活動全体を通して命を大切にすること、他人を思いやる心、自立心、規範意識等が育つ道徳教育を行っています。

多様な方法で子ども们的のわずかな変化の把握に努め、いじめであることが確認できた場合、どんな内容であろうと、情報が校長に入る体制をとっております。

問題解決には、担任一人に任せず、いじめ問題対策委員会など、組織で対応するようにしています。

教育委員会としては、いじめの認知の報告を受け、その内容のひとつひとつを確認し、状況によっては学校に指導を行っています。



八百津小学校

問 和知体育館の再整備計画について

Q1 和知センター周辺の総合的な再開発について、緊急に対応するものや長期的なものなど、地域住民の声を聞きながら、目に見える形で示してほしい。また、和知センターと体育館の複合型施設計画の進捗状況と今後の見込みについて伺う。

答 (金子町長)
令和元年5月の全員協議会で報告させていただいた和知地区体育施設再整備事業につきまして、「八百津町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基

本目標のうち、八百津に呼び込む中の重点施策として、平成29年に構想計画、平成30年度に基本計画を作成しました。

和知体育館を、従来の体育館としての機能以上に積極的な集客を目指すものとし、単に体育館の再整備だけでなく、既存の地域センター及び生涯学習センターとしての役割を担う、地域振興の中心的な役割を担うものをめざしました。しかしながら、試算では10億円以上の事業費を要し、令和元年度で実施計画まで進むことは、財政的な理由により断念せざるを得ないものとなりました。

この基本構想、基本計画策定にあたり、利用者のアンケート等も行い、和知体育館を中心とした和知地区の総合的な整備を行うにあたり、方向性が見えたことは大きな成果だと考えております。

しかし、緊急的に対応するものとして考えなければならぬ課題は、和知体育館の老朽化対策であり、体育館単体としての再整備の検討が必要となつてまいります。

これらの課題を克服するには解体もしくは建て替えが考えられますが、和知地区の学校開放施設の利用状況等や、公共施設再編計画及び個別施設計画等を考慮し、検討してまいりたいと思えます。



和知センター周辺

Q2 和知センター周辺土地の活用について伺う。

答 (金子町長)
計画を見直し、体育館単独の再整備について検討する場合、センター西側の土地開発基金の土地は、和知センターの敷地として、駐車場あるいは屋外行事の際ご利用いただければと考えております。また、南側の関電用地につきましては、現在遊休地となっており、将来、必要となつた場合には、用地取得も考えております。



議会へのご意見をお聞かせ下さい。
(役場本庁・各出張所に設置)



令和元年11月20日、可茂市文化創造センターalaにおいて、可茂地域市町村議会議員研修会が開催されました。

可茂地域市町村議会議員研修会